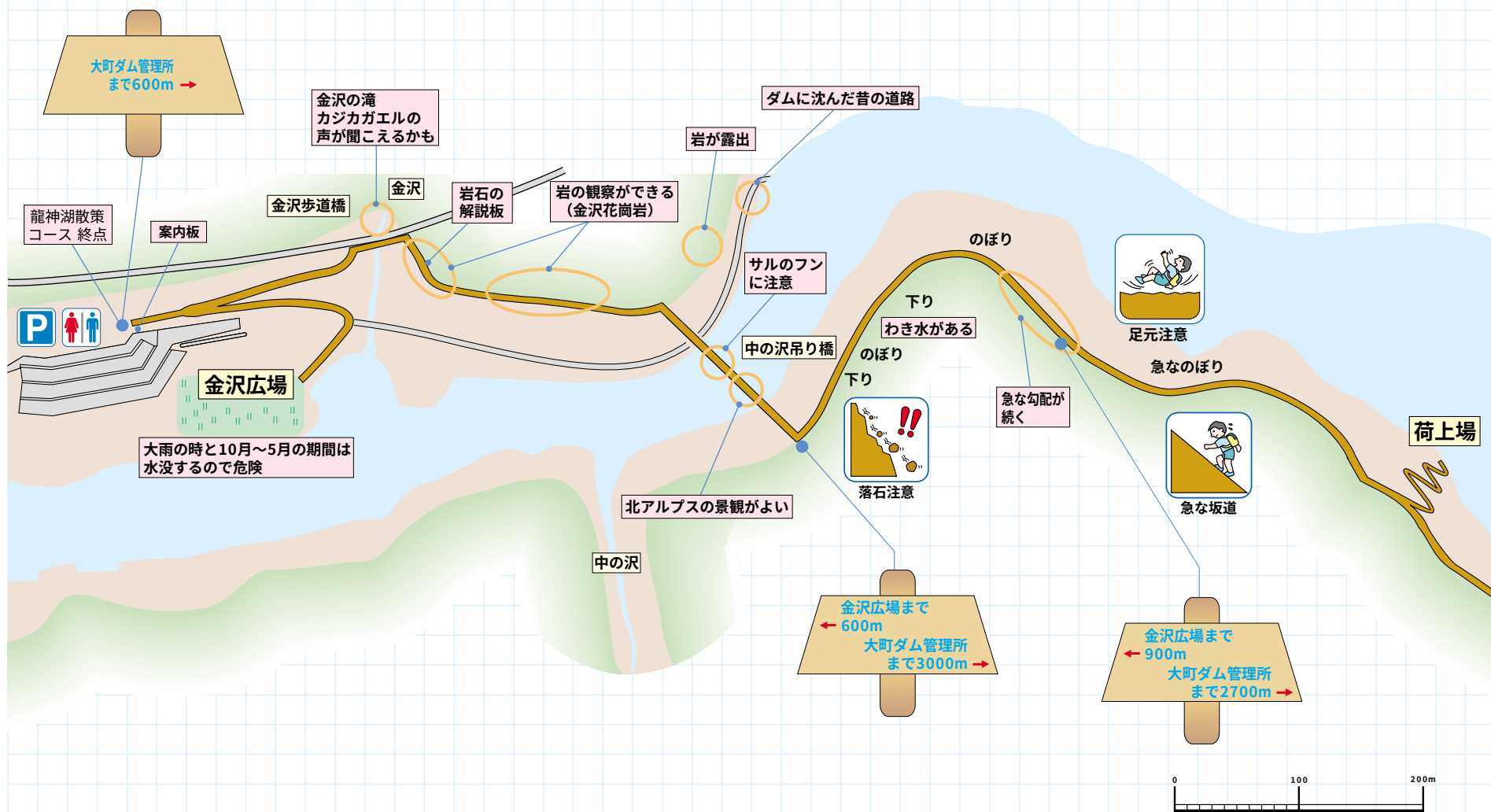
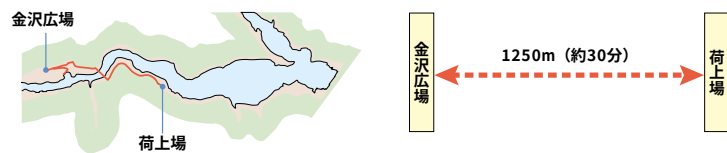


散策コースその(3/3)



第2章

りゅうじんこ

龍神湖周辺で見られる 生き物たち

りゅうじんこ

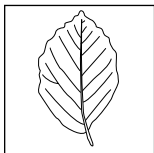
龍神湖周辺で見られる植物

けいこく
溪谷を歩いてまず目につくのが美しい草花。そう、自然観察の中で最も身近に感じられるのは草花の観察だろう。でも、きれいだからといって摘んだり折ったりしてはいけない。この本を開き、花や葉を観察したり、カメラマンを気取って撮影してみたり。あるいは花の香りや葉の感触で種類を見分けることも。ルーペやカメラ、双眼鏡、スケッチブックなど使って観察すると、自然観察の楽しみの幅が広がるよ。

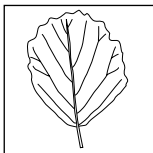


●マンサク(マンサク科)

早春の3～4月ごろに黄色の花を咲かせます。大町市では、太平洋側に多く分布するマンサクと日本海側に多く分布するマルバマンサクの両方を見ることができます。見分け方は葉の形の違いで、マンサクの葉は先端がとがっているのに対し、マルバマンサクの葉の先端は丸くなっています。



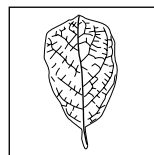
マンサク



マルバマンサク



タムシバ



コブシ

●タムシバ (モクレン科)

4～5月ごろ龍神湖南側の山の斜面に一斉に白い花を咲かせます。本州・九州の日本海側に分布し、木の皮や若い枝には香りがあり、葉をかむとわずかな甘味があります。コブシとよく似ていて間違えやすいのですが、コブシの葉が卵形なのに対し、タムシバの葉は先端がとがっているのが見分かります。

●トクワカソウ (イワウメ科)

岩場に群生し、4～5月ごろ葉の間に立った茎にうすいピンク色の花をひとつだけ咲かせます。北陸・近畿地方に分布します。葉はウチワのような円形で、もとの部分は円形またはくさび形です。関東地方に生育するイワウチワの仲間です。



●ホンシャクナゲ (ツツジ科)

岩場に群生し、5～6月ごろ枝先にピンク色の花を咲かせます。葉の表面はつやがあり、長さ10～20cm・幅3～5cmの細長い円形をしているので、花の季節でなくとも見つけることができます。





●ヤマアジサイ (ユキノシタ科)

山中のやや^{しめ}湿った木陰^{こかげ}に生え、6～8月ごろに^{あおむらさきいろ}青紫色または白色の花を咲かせます。福島県以西の太平洋側・四国・九州に分布します。長野県南部のものは白色になるものが多く、北部のものは^{あおむらさきいろ}青紫色になるものが多いようです。葉の長さは7～18cm、縁には^{ふち}あらい鋸歯^{のこぎりば}があります。

●エゾアジサイ (ユキノシタ科)

北海道・本州日本海側の^{たせつちたい}多雪地帯・九州北部と大隅半島^{おおすみ}に分布します。^{はいいろ}溪流沿いに多く生育し、7～8月ごろ^{あおむらさきいろ}青紫色の花を咲かせます。ヤマアジサイにくらべて葉も花も大形で、葉の縁の鋸歯は深くするどく、葉の先は急にとがります。葉の長さは12～25cm。



●ノリウツギ (ユキノシタ科)

ノリウツギは「^{のりうつぎ}糊空木」と書きます。和紙をすくときに使う^{のり}糊を、この木からとったことからついた名です。アジサイの仲間ですので、花には実を結ぶ花と、結ばない花（^{そうしよくか}装飾花）とがあります。花が枝の先に^は穂になってつくことが、アジサイの花のつきかたと違ってきます。



●エゾズリハ (ズリハ科)

日本海側の山地の植物ですが、北海道に多いことから^{えで}蝦夷の名がついています。古い葉をおしのけるように新しい葉ができてくるので「^{ゆす}譲り葉」といいます。^{しゅういしめ}雌雄異株で、6月に花が咲き、^{めす}雌株には8月に緑色の果実がつきます。そして秋には^{むすめ}紫色に熟します。毒草ですので、ぜったいに食べないでください。

●クサギ (クマツヅラ科)

葉をもむと、いやな臭い^{にお}がするのでクサギ（臭木）といわれます。しかし、この木と花はとても美しく、蜜も出てよい香りがあるので、昆虫たちが多く集まります。特にミヤマカラスアゲハのようなアゲハチョウ類がやってきます。秋には赤い^{しめくろい}がく（宿存がく）といいますが、^{むすめ}のついた^{いけはな}紫色の果実が熟します。これは、よい^{いけはな}生花の材料になります。



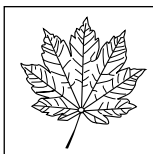
●ツルリンドウ (リンドウ科)

リンドウに似たつる性の植物なので、この名があります。山地から高山に生え、秋に^{むすめ}淡い紫色の花が咲き、赤い果実がつきます。茎は地面をはっているのがふつうです。左の写真のように他の植物の茎に巻きついていて、花がよく目立ちます。



●ハウチワカエデ（カエデ科）

5月ごろ濃い赤紫色の花を咲かせ、10～11月ごろに紅葉します。高瀬渓谷は多くのカエデ類が紅葉しますが、中でも最も美しく紅葉するのがハウチワカエデです。葉は直径が10cm以上になり、9～11に分かれます。



ハウチワカエデ

にゅうるい ●ほ乳類

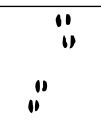
●ニホンカモシカ（ウシ科）



特別天然記念物に指定されている動物ですが、運がよければ大町ダムでも見かけることができます。

ニホンカモシカはかつて、狩りの対象とされていたために、その数が減り、山奥でしか見られませんでした。昭和9年に「天然記念物」に指定されて保護が始まり、数が増えて大町ダム周辺でも見られるようになりました。

フィールドサイン▶



●ニホンザル（オナガザル科）

昼間活動し、地上や木の上で生活します。そして果実・木の芽・昆虫などを雑食するので、一年中見かけることができます。散策コースを歩いていると、ときどき動物のフンを見かけますが、これはほとんどニホンザルのものです。



●鳥類

●トビ（ワシタカ科）



ワシやタカの仲間によく見られるのがトビ。生きている魚やネズミが主なエサですが、動物の死がいも食べます。龍神湖の上や山腹を巡回して飛んでいるのですぐわかります。鳴き声は「ピーピーヨロロ」。

けいこく 高瀬渓谷のカエデ

10月中旬から11月中旬にかけて、龍神湖周辺から高瀬渓谷全体がみごとに紅葉します。ひとくちに「紅葉」といっても、実はカエデの種類によって赤い葉や黄色い葉になるものがあります。そこで、高瀬渓谷で見られる色鮮やかなカエデの代表的なものを紹介しましょう。

紅葉するカエデ：ヤマモミジ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデなど

黄葉するカエデ：オニタヤ、モトゲイタヤ、ウリカエデ、ウリハダカエデなど



ヤマモミジ

◎5～9

◎5～9cm



ハウチワカエデ

◎9～11

◎7～13cm



コハウチワカエデ

◎7～11

◎5～8cm



オニタヤ

◎5～7

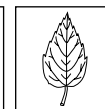
◎6～14cm



モトゲイタヤ

◎5～7

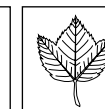
◎6～14cm



ウリカエデ

◎0～5

◎4～8cm



ウリハダカエデ

◎3～5

◎6～15cm

※◎切れ込みの数 ◎葉の大きさ

りゅうじんこ

龍神湖周辺で見られる動物たち

散策中、いつもキミたちの近くにいる仲間は鳥たち。耳をすまし目をこらせば、鳥たちのさえずりや餌をついばむ姿を見ることができる。コンパクトな双眼鏡があれば、鳥たちはますます身近な仲間になるよ。一方、なかなかお目にかかれそうもないのが大きな動物たち。運がよければ散策コース対岸の岩場に立つニホンカモシカの姿を見ることができるかも。ただし、ツキノワグマやマムシなど危険な動物もいるので、コースをはずれないようにね！



●イワツバメ (ツバメ科)

街の家の軒下などに巣をつくるツバメと違い、イワツバメは山地や溪流に近い岩壁や岸壁の洞窟に巣をつくりま^す。5～6月ごろ、大町ダムの周辺に巣をつくるため飛んでいる姿を見ることができます。

●アオサギ (サギ科)

日本のサギ類中で最も大きい種です。大町ダムの下流側の水辺で魚をとっている姿を4～10月によく見ることができます。頭が白く、体が青黒いので、かんたんに見つけることができます。首を曲げて飛ぶのが特長です。



●ウグイス (ヒタキ科)

5月ごろ、大町ダムに来ると、必ず「ホー、ホケキョ」という鳴き声を聞くことができます。しかし、高い木に止まることは少なく、ささやぶや低木の林で繁殖するので、あまり姿を見ません。夏は山奥へ移動します。



●マガモ (ガンカモ科)

頭と頸が青く光る美しい渡り鳥。雌は地味な色彩です。9月中旬ごろ北方より龍神湖に渡ってきて、冬を越します。

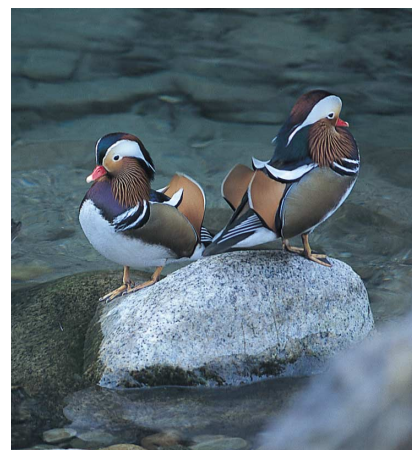


●カルガモ (ガンカモ科)

一年中ふつうに見られます。山間から市街地の水田、川、池など、どんな水域でも暮らしています。

●オシドリ (ガンカモ科)

湖に群れて暮らしますが、夏には山中に移動し、5～6月木の洞に巣をつくりま^す。水鳥ですが木によくとまるめずらしい鳥です。雄は鮮やかな色をしています^が、雌は地味な色です。雄も夏は同じような色になります。



●ヤマセミ (カワセミ科)

日本のカワセミ類の中の最も大きい種(約38cm)で、小魚をエサに湖畔付近で暮らします。後頭部の羽が冠状なのが特長。「キャキャキャ」と高い声で鳴きながら一直線に飛びま^す。龍神湖では、大町ダムから見える流木止めにとまっているところ^がときどき見られます。

